

## 薬学部男女共同参画セミナー実施報告

○伊藤 史織<sup>1</sup>, 安部 賀央里<sup>1</sup>, 伊藤 友香<sup>1</sup>, 豊玉 彰子<sup>1</sup>, 内藤 敏子<sup>1</sup>,  
小玉 菜央<sup>1</sup>, 宮嶋 ちはる<sup>1</sup>, 坂崎 美香<sup>1</sup>, 森田 友香<sup>1</sup>, 澤中 美希<sup>1</sup>,  
伊藤 菜奈子<sup>1</sup>, 菊池 千草<sup>1</sup>(<sup>1</sup>名市大院・薬)

【背景】薬学生の半数は女性であるのに対して薬学部の教員のうち女性が占める割合は少ない。ロールモデルが少ないため、女性は研究職に就くことに対して様々な不安を抱えているのではないかと推測した。そこで、名古屋市立大学女性研究者支援室の依頼を受け、本学薬学部の女子学生と女性教員で薬学部男女共同参画セミナー実行委員を組織し、研究職に興味を持っている学生が性別に関係なく研究の道に進める支援になるようなセミナーを計画した。

【実施報告】本学出身の女性研究者の先生を招いての講演会や、パネルディスカッションを開催した。第一回のセミナーは『科学研究者にも多様性を一男女がともに活躍できる場を目指してー』と題し、研究者として大学で活躍されている先生に講演をしていただいた。第二回のセミナーは『女性研究者が輝く時代へ。語り合おう！男女が等しく活躍する社会を！』と題し、大学や企業で活躍されている先生をお招きして研究者としてのキャリアパスやワークライフバランスについてのパネルディスカッションを行った。セミナー後のアンケートでは、「完璧を目指さなくていいという言葉に救われた」「研究職でもやっていけそうな気がした」「出産や育児休暇、復職についての話が聞けて参考になった」等の意見が見られた一方、「女性の優遇策が目立ち過ぎている」「現状では家庭と研究を両立させるのは難しい部分がある」等の意見もあった。

【総括】本セミナー活動によって、薬学生とくに女子学生が研究職へ進むことに対する興味を持つきっかけになったのではないと思われる。今後も男女共同参画セミナー実行委員の活動を通して女性研究者のネットワークを広げ、自らも薬学研究者として歩んでいきたい。